

きっと見つかるわたしの生き方

portn

ポルタ

2025 #051

一般財団法人
長寿社会開発センター



子どもから高齢者までの“楽しい居場所”づくり

セカンドライフは地域のために。
いくつになっても輝ける
“光^{こう}齡^{れい}者^{しゃ}”を目指しています

Move in Together

災害に強いアマチュア無線で地域貢献
生駒市アマチュア無線
非常通信協力会 (IAE)



大人の鼓動

標高1100mから琵琶湖を一望。

「びわ湖テラス」

Another Life

ハレの日を最高のおもてなしで演出する

「株式会社人形町今半」

災害に強い
アマチュア無線で
地域貢献

生駒市
アマチュア無線
非常通信協力会
(IAE)

趣味のアマチュア無線に 「災害対応」という使命を加え 世代を超えて交流・活動

災害時の情報伝達に有効なアマチュア無線を役立てることを目的に、
2020年に発足した「生駒市アマチュア無線非常通信協力会(IAE)」。
「もしも」に備えて活動する平均年齢70歳のメンバーを訪ねた。



Move in Together
共に力を合わせて

取材・文／中林貴美子 撮影／水野真澄

趣味のアマチュア無線で 自宅にいながら社会貢献

アマチュア無線は、自宅にいながら日本はもとより、世界中の人とつながることができる便利なツールとして根強い人気がある。携帯電話やインターネットの普及により、年々愛好家の減少と高齢化が進んでいるものの、災害時に回線がパンクしがちな電話と違い、緊急時の連絡手段に強いという特性があり、近年では趣味の域にとどまらず、災害ボランティアなど社会貢献

への期待が高まってきた。

「生駒市アマチュア無線非常通信協力会(以下IAE)」は、60年以上の歴史を持つ「生駒アマチュア無線クラブ」を母体に、生駒市の防災ネットワークの一助を担うために発足。現在、市内45名(無線局)のアマチュア無線愛好家が会員となり、災害時に備えた活動や非常用電源の準備などを行っている。

会長の杉江久男さんは「東日本大震災の時、被災地の情報伝達や通信手段の確保にアマチュア無線家が重要な役割を果たしたことを

メンバーを増やすことが
私の役割なんです



「もっとアマチュア無線の魅力を広めたい。だからイベントや講習会も開いています」と会長の杉江久男さん(71歳)

大阪・関西万博の情報を発信するアマチュア無線特別記念局を、この日は生駒山麓公園に移動局として開設していた



当日はメンバーで機材を持ち寄り、体験運用も実施した

聞き「私たちも地元でもし大災害が発生したとき、アマチュア無線の電波を役立てたい」と思っています」という。

2020年12月には、生駒市と災害時における情報の収集・達を迅速かつ的確に行うための連携訓練を実施。その有効性が認められ、2021年には生駒市と協定を締結。災害時には生駒市災害対策本部内に機材を持ち込み、アマチュア無線局を臨時開設することが決定したほか、年1回、共同訓練を

実施することとなった。

「はじめは懐疑的だった市も、連携訓練をしたことで、無線局が生駒市内の広範囲に存在し、面として有効な情報収集が可能と理解してもらうことができた」(杉江さん)

IAEの活動は、年1回、12月に市との共同訓練で活動の改善・習熟を図っているほか、毎週木曜20時の定期交信で近況報告とともに通信状況をチェック、さらにはイベントへの出展などでのアマチュア無線愛好家の拡大・育成など多岐にわたっている。

こうした取り組みは、内閣府が地域で社会参加活動を積極的に行う高齢者のグループを表彰する「社会参加活動事例」の令和6年度社会参加章受章としても実を結んでいる。

大阪・関西万博無線特別記念局の移動局として世界の人と
 交信するため電波状況をチェックする杉江さん



無線機のほか、交信証や終了証の印刷のためにパソコン操作も欠かせない

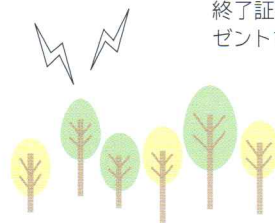


マンツーマンで交信方法を指導し「体験運用」でアマチュア無線を体験してもらう



交信に必要な用語をわかりやすく
 マニュアルにしている

「体験運用」の
 参加者には、
 終了証をプレ
 ゼントする



「体験運用は、アマチュア無線を知らない人に魅力をアピールする絶好の機会なんです」と杉江さん。この日はアマチュア無線の電波を使った方向探査競技「ARDF練習会」も同時開催していたため、競技に参加した高校生も多く体験に訪れていた。

「昨年体験運用を経験した高校生のうち2人が、アマチュア無線の免許を取ってくれたそうです。免許は国家資格なのでハードルが高そうに思われますが、

5月のある日、きらめく新緑の生駒山麓公園に、IAEのメンバーが集結した。この日開催された、日本アマチュア無線連盟(JARRL)奈良支部による「大阪・関西万博特別記念局公開運用」とアマチュア無線免許がない人が交信できる「体験運用」にIAEが協力したためだ。アンテナや無線機材を設置し、通信状況のチェック・調整、初心者への指導など、それぞれが慌ただしく活躍していた。

万博記念局の公開運用や 体験運用で活動をPR

興味を持てば大丈夫。若い人に愛好家が増えるのはうれしいですね」と杉江さん。

機材の設置、全国から交信のある大阪・関西万博特別記念局移動局としての交信証明(QSLカード)「交信証」発行手続きなど、それぞれが自分の得意分野を生かし、年齢を感じさせない躍動ぶりだ。

「私は世界中の人と交信するために、今さらながら英語を勉強しますよ」と笑う杉江さんのイキイキとした笑顔が印象に残った。

受信機を持って
 発信装置を探します

ARDF※は
 全国大会もありますよ



上/競技用に園内に設置していた電波発信装置 左/JARRL奈良支部の中田雅之さん(左)と菊一好史さん

※) Amateur Radio Direction Findingの略

「皆さんとの交流は機材などの勉強にもなります」と中島仁志さん(67歳)

ひまつぶしのつもりが
すっかりハマりました



共通の趣味で盛り上がる 仲間ができるのがいい

この日、交信証や終了証のプリントのためにパソコンを操作していたのは、IAE理事の中島仁志さんだ。アマチュア無線歴は50年のベテランだが一時は仕事で忙しく休止。杉江さんに誘われて再開したという。

「無線での交信自体も楽しいのですが、イベントの企画や運営、後日の反省会で、大先輩の話を聞きながら、共通の話題で盛り上げられるのが楽しいですね。ネットのS

NSもいいですが、電波には直接話せる電波ならではの面白さがあります」と言う。

IAE最年長の納富勇生さんは、アマチュア無線を小学3年生からスタートしたという。「会社員時代に一時はやめていたアマチュア無線を再開

しました。IAEのことは、生駒市の広報誌で知って参加を決めたんです」という納富さんにとって、アマチュア無線は生活の一部。「全国の多くのクラブに参加しているの、IAEの定期交信だ

交信が毎日の
日課なんです



「全国の仲間と毎日話していますよ」という納富勇生さん(79歳)



災害を想定し災害対策本部を設置した生駒市との合同災害訓練の様子

けではなく、毎朝8時15分のおはようから、昼前後、夕方、夜とあちこちと交信しています。私の場合、お互いの生存確認の意味もあるんですよ」と笑う。毎日交信しているが、イベントで直接顔を会わせるのも楽しみの一つ。そのため目立つ名札をつけ、自分のコールサインをアピールしているという。

アマチュア無線愛好家の目的は、仲間づくり、天気や太陽の黒点、流星群にも影響され、時には南極にまでつながるといわれるワクワク感、交信後に取り交わす交信証の「QSLカード」収集など様々。だがそこに災害対応ボランティアという使命が加わることで、それぞれの生きがいややりがいにつながっているようだ。



初心者向けの「体験運用マニュアル」



JARLが発行するアマチュア無線の魅力を紹介するパンフレット

Move in
Together

DATA

生駒市アマチュア無線
非常通信協力会

住 奈良県生駒市北田原町 2453-2
会長：杉江久男

携帯 070-5500-0026

コールサイン JH3ISO

HP <https://www.jl3zmw.com>